

授業の改善プラン学ぼう

笠間

研修会 学テ・理科結果踏まえ

全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)の結果を授業に生かそうと、笠間市平町の県教育研修センターで5日、前年度の学力テストの理科の結果を踏まえて、授業の改善プランを考える研修会が初めて開かれた。県内の小中学校の教員69人が参加し、学んだ知識や技能を活用できる力を高める授業づくりについて学んだ。

研修会は、全国学力テストの結果を、授業づくりに反映しようと同センターが

初めて実施。参加した教員は研修の内容を基に、授業の改善プランと子どもの理解度を測るテストの問題を作成し実際に授業で実践する。1月に2回目の講習を実施し、プランに沿って実施した成果を発表する。終了後は、県内の小中学校に改善プランと問題をまとめて配布予定。

前年度の全国学力テストの理科の県内の平均正答率は小学6年が63・5%、中学3年が67・9%でいずれも全国平均を上回る好成绩だった。一方で、実験結果を分析したり、結果の原因を考察したりする記述問題の正答率が全国平均を下回り、知識や技能の「活用力」に課題が見られた。

研修会は、学力テストで得た課題を基に、児童生徒

授業の改善プランを話し合う教員たち 笠間市平町



の活用力を高めるための授業づくりを考えた。県内の小中学校の教諭が、実践している活用力を育てる授業を紹介。てこの釣り合いを利用したモビールの設計図を作成させたり、実験計画を立てさせてグループごとに比較する授業などを説明した。研修を受けた教員からは「自分の授業でも取り入れたい」などの感想が聞かれた。(成田愛)